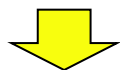


# 「事故未然防止・商品開発時の基盤となる子どもの行動特性データの蓄積」(株式会社INAX)

## プロジェクトの目的

- ・水回り空間の商品を開発する際に子どもの危険な行動については未知。
- ・事故情報等におけるヒアリングでも実際の行動について確認が不可能。



子どもの行動特性についてモニタリングし、危険点を把握することにより商品への反映を検討。

## 実施方法

- ・ 実際の住居(25件)に調査スタッフが訪問して、事故やヒヤリハットが発生した現場でその時の状況や心理などを母親にインタビューを行った。
- ・ インタビューについては以下の観点で行った。
  - － 間取りに関する危険...ドア、窓、段差、床材等
  - － 設備に関する危険...浴室、キッチン、洗面化粧台、トイレ
  - － 家具に関する危険...たんす、クローゼット、テーブル、イス等
  - － 家電製品に関する危険...テレビ、電子レンジ、炊飯器等

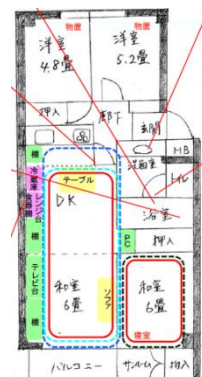
## 結果

浴室の出入り口



一扉は中折れタイプで、中央の持ち手。端を持ち、指を詰めることがある。

風呂場と洗面室の段差が大きいため、子どもは風呂から出るときに飛んで出る。風呂マットがすべる素材だと転ぶので、滑らないものになっている。!



生活不具合マップ

		空間				計
		浴室	洗面所	キッチン	トイレ	
事故の種類	転倒	17	1	1	1	19
	転落	5	0	0	2	7
	衝突	1	1	2	2	7
	挟む	2	4	8	3	17
	誤飲	0	2	0	0	2
	やけど	7	2	15	0	24
	その他	5	0	29	1	35
計		37	10	55	9	111

- ・ 25件の訪問調査データによって、実際の事故データではあまり現れることのない危険行動(「挟む」等)の事例を把握できた。
- ・ 現場でヒアリングしたことにより、間取り・設備等の詳細の仕様がわかり、子ども特有な危険行動が明らかになってきた。

## 今後の展望・展開

- ・商品開発時の危険点の抽出に役立てていくと共に、業界等への提案を行っていく。
- ・データを増やしていくとともに子ども特有の行動について深堀り(子どもの発達段階毎 環境(戸建て・集合・パブリック)毎の分析)をしていくことが今後の課題である。